

聴覚障害者アウトリーチ支援の極意 ～歩き続けた意義と成果～

東京聴覚障害者福祉事業協会
東京手話通訳等派遣センター

森せい子 / 精神保健福祉士

はじめに

中途失聴者としての体験

聴覚障害者・手話の人の存在

「おいで」との一言 「手伝って」の一言
「待ってるよ」との一言を運んでくれた人
まさに聴覚障害者にとっての
「アウトリーチ」だろうと感じている

アウトリーチ・聞こえる人 V S 聞こえない人

ピンポーン♪ 森さ～ん！いますか？ 支援センターの山田です。ピンポーン♪

・ ・ いないのかな ・ ・ ・ ・



山田さんが
あとでバナナが
食べられる
な ・ ・

誰かきた？
どうせ話せ
ない



聴覚障害者へのアウトリーチ

家族や支援者の対応放棄に風穴をあける

☆ 何度もFAXしたんですけど返事がありません！

→ 訪問して初めてわかったFAXの紙詰まり

☆ 家庭の中の孤独 誰とも話せず対話無し

意思表示は暴力

→ とにかく行ってみよう！段々と時間が伸びて

会えなくてもメッセージを残して

沢山のご家庭に行ってみて

地域社会や家族の中で関係性が低く
言葉も通じない状態に
慣れていることが多い

自らの精神状態、言葉の壁、人とのかかわりの
少なさ等が複合して、さらにさらに本人を
非社会的・反社会的存在に

苦しくても誰にもSOSを出せない状態の方にとって、同居している方のSOSも大事
普段から家族との意思疎通不全状態になりやすい聴覚障害者の場合、家族が異変に気付かないか気づいてもどこに相談したらよいのかわからないというケース

だからこそ聴覚障害者へ支援ができる専門職のアウトリーチはとても大切

驚くことに！



- ▶ ドアの前まで来てハンコだけ
もらう訪問スタッフ
- ▶ ドアを少し開けて 動いていること
を確認して帰る専門職

それは・・・アウトリーチとはいえない

こんな対応はNG 具体的参考例

▶ 担当になった方が聴覚障害者だから、筆談の用意をしていけば大丈夫と思ったのに・・・

書いた文を見ようともしない

→ 文章の苦手な方は多い

主な意思疎通手段が手話

▶ろうあ者相談員だから手話で話そうと思ったら手話が通じない。 →手話が通じない聴覚障害者も多くいるので事前にリサーチしておく。必要に応じて情報保障者と協働を。

▶話がかみあわない（手話でも筆談でも）関わりたくない →関係性を作っていくために言語だけではなく多角的なアプローチを試みる（絵を描く・ウォーキングする等）

聴覚障害者への アウトリーチの意義と成果


- ▶ 家庭に支援者が入ることにより本人とその問題・課題を社会化していける
- ▶ 聴覚障害と精神障害の両面で相談できる人が存在することを知り相談できるようになる
- ▶ 聴覚障害者の心理的な面へのアプローチがメンタルヘルス支援となる
- ▶ 家族との好ましい関係性を再構築するきっかけが作れる
- ▶ 社会との接点がうまれる

今後の展望 孤独死を防ぐ

▶事例を収集し検討する

▶情報発信をする ICTの活用等

※聴覚障害者対応ができる地域活動支援センター・相談支援事業が増えアウトリーチを積極的に実践し、報告し合えること☆



みんなでがんばりましょう！
ご清聴ありがとうございました